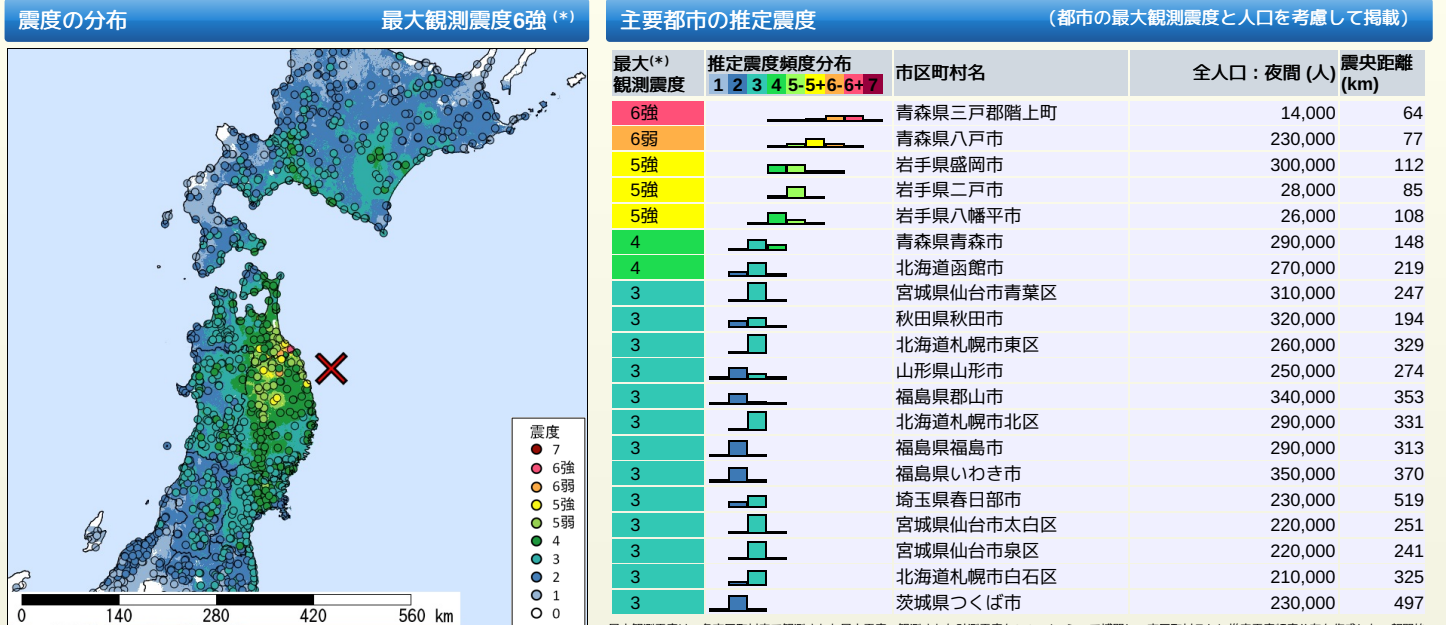


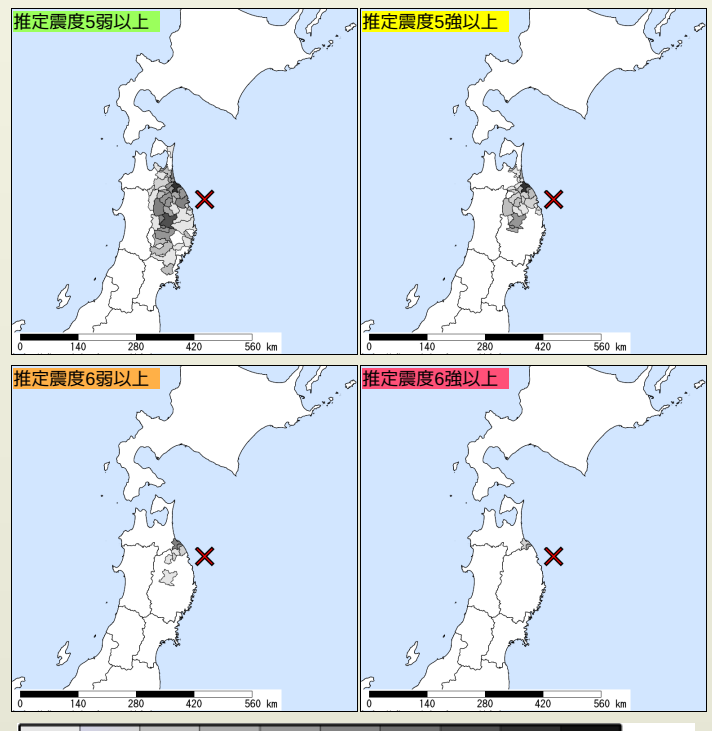
M 6.9, 震源地:岩手県沖, 深さ約50km, 2026/06/25 07:30頃発生 (気象庁発表)



解析開始時点(2026/06/25 07:40:37)で収集されている防災科研K-NET, KIK-net, 気象庁, 地方公共団体震度計の計測震度データを利用。(*) 気象庁発表の情報と一致しない場合がある。一部正式な震度観測点ではない観測点を含む。暫定的な震度値を含む。丸印は観測、塗りつぶしは推定データ。×印は震央位置。他の図表も同様。

最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度による四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



行政区名	震度5弱以上 遭遇人口	震度5強以上 遭遇人口	震度6弱以上 遭遇人口	震度6強以上 遭遇人口
全国	1,000,000	200,000	50,000	10,000
青森県	500,000	200,000	50,000	10,000
青森県八戸市	200,000	200,000	50,000	2,000
青森県三沢市	50,000	10,000		
青森県上北郡野辺地町	5,000	2,000		
青森県上北郡おいらせ町	20,000	1,000未満		
青森県三戸郡三戸町	10,000	2,000		
青森県三戸郡五戸町	20,000	1,000未満		
青森県三戸郡南部町	20,000	2,000		
青森県三戸郡階上町	10,000	10,000	10,000	10,000
岩手県	500,000	50,000	2,000	
岩手県盛岡市	100,000	10,000	1,000未満	
岩手県花巻市	10,000			
岩手県久慈市	20,000	1,000		
岩手県二戸市	20,000	2,000		
岩手県八幡平市	20,000	2,000		
岩手県滝沢市	20,000	1,000未満		
岩手県岩手郡岩手町	5,000	1,000未満		
岩手県紫波郡紫波町	20,000	10,000		
岩手県紫波郡矢巾町	20,000	10,000		
岩手県下閉伊郡普代村	2,000	1,000		
岩手県九戸郡軽米町	10,000	2,000	1,000未満	
岩手県九戸郡九戸村	5,000	2,000	1,000	
岩手県九戸郡洋野町	20,000	5,000	1,000	
岩手県二戸郡一戸町	10,000	5,000	1,000未満	

補間した250mメッシュの推定震度分布と、250mメッシュに細分化した平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を重ね合わせ、各行政区の震度遭遇人口を推計した。

全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1~999人場合は1000未満と表示。全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。

この地域で起こった過去の主な被害地震

発生年	地震名	M	被害
1858	八戸・三戸	7.3	八戸・三戸で土蔵・堤水門・橋などが破壊。青森・弘前・陸奥・田名部・鯉ヶ沢・秋田で強く感じた。
1901	青森県東方沖	7.2	青森県で死傷18、木造家屋8、秋田・岩手でも被害があった。宮古に波高60cmの津波があった。
1902	青森県東部	7.0	三戸・七戸・八戸などで倒壊家屋3、死1。前の地震の余震か?
1945	青森県東方沖	7.1	青森県で家屋倒壊2、死2。八戸などで微小被害、津波全振幅35cm。
1968	青森県東方沖 (十勝沖地震)	7.9	青森を中心に北海道南部・東北地方に被害。死52、傷330、建物全壊673、半壊3004。青森県下で道路損壊も多かった。津波があり、三陸沿岸3~5m、襟裳岬3m、浸水529、船舶流失沈没127。コンクリート建造物の被害が目立った。
2008	岩手県沿岸北部	6.8	太平洋プレートの正断層型スラブ内地震(深さ108km)。死1、傷211、住家全壊1、半壊0(2009年1月現在)。最大震度6弱(岩手県1村、青森県3市町、6強は後に取り消し)が観測されたが、短周期の揺れのため被害は比較的少なかった。
2011	三陸沖 (東北地方太平洋沖地震)	9.0	日本海溝沿いの沈み込み帯の大部分、三陸沖中部から茨城県沖までのプレート境界を震源域とする逆断層型超巨大地震(深さ24km)。3月9日にM7.3 (Mw7.4)の前震、震源域内や付近の余震・誘発地震はM7.0以上が6回、M6.0以上が97回、死19418、不明2592、傷6220、住家全壊121809、半壊278496 (余震・誘発地震の一部含む; 2016年3月現在)。死者の90%以上が水死で、原発事故を含む被害の多くは巨大津波(現地調査によれば約40m)によるもの。最大震度7 (宮城県栗原市)、6強が宮城県13市町村、福島県11市町、茨城県8市、栃木県5市町だが、揺れによる被害は津波に比べて大きくなかった。この領域では未知の規模で、869年貞観の三陸沖地震と1896年三陸沖地震級の津波地震が重なって襲来したと考えられる。

出典: 国立天文台「理科年表 平成29年」、丸善出版 (2016)。一部表現を削棄

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

